

記事掲載

半導体産業新聞
2014年3月26日号

PWB,PCB,基板・実装技術・EMBY,EMS

インタビュー

(株)テラプロープ
代表取締役社長

渡辺 雄一郎 氏



エルピータメモリ(現マイクロナメモリジャパン)など、ここ数年で業容の拡大に取り組んできた。主要顧客の旧エルピータがマイクロナ傘下になるなど、今後は、強みとするDRAMの受託テストをベースに、非メモリ分野の受託テスト

やパッケージング工程への進出など、ここ数年で業容の拡大に取り組んできた。主要顧客の旧エルピータがマイクロナ傘下になるなど、今後は、強みとするDRAMの受託テストをベースに、非メモリ分野の受託テスト

落ち込むと思っていたが、モバイルDRAMの旺盛な需要などにより、年度を通じて好調をキープしている。また、非メモリーの受託テストに関しても九州事業所(熊本県)で行っている車載用マイコンの事業が大きく伸びた。

一方、WLP(ウエハーレベパケット)などのパッケージ分野については、足元は回復基調にあるものの、13年9月ごろまで調整局面が続ぎ、厳しい事

分違う。端的に言えば、エルピータとマイコンは分違う。端的に言えば、エルピータとマイコンは

海外展開について教

トビジネスも受託する予定

トはエルピータがマイクロン傘下になっても事業は続きますか。

渡辺 広島工場で前工程を行ったものに関しては、基本的に当社の広島事業所でウエハーテストを行うことになり、影響がないとは言えない。

海外展開について教

トビジネスも受託する予定

ウエハーパンパ形成工程

(聞き手・稲葉雅巳記者)

モバイルDRAMは現行体制維持

海外合併事業 非メモリーに注力

残り1カ月足らずとなった2013年度(14年3月期)を振り返って。

渡辺 期初段階との比較では「思ったほど悪くないな」というのが本音だ。当初は主力のDRAM受託テストが市況の変動から若干

ルピータはウエハーテストが重く、ファイナルテストが軽い。対照的にマイクロンはウエハーテストが軽く、ファイナルテストで振り落とすという発想だ。

この違いによる影響は、

渡辺 広島事業所では9割弱がモバイルDRAMを流しているが、これに関し

は、WLP工程と多くの生産設備を共用することができ、事業の安定化にもつながることができると見ている。

業環境が続いた。ただ、全体的にはDRAMの受託テストの好調に支えられ、13年度の売上高は前年度比2%増の218億円、営業損益も黒字転換を達成できる見通しだ。

広島のDRAMテスト

渡辺 台湾パワーテック(力成科技)との合併事業で進めているテラパワーは、メモリリーテスター60台、ロジックテスター20台の計80台体制で事業を展開している。メモリはMMTのほか、擬似SRAMやNORフラッシュのテストを行うっており主力事業だ。

渡辺 台湾パワーテック(力成科技)との合併事業で進めているテラパワーは、メモリリーテスター60台、ロジックテスター20台の計80台体制で事業を展開している。メモリはMMTのほか、擬似SRAMやNORフラッシュのテストを行うっており主力事業だ。

渡辺 三重工場から設備移設の第1弾はすでに終わっており、2回目は14年5月を予定している。設備と同時に顧客も引き継いでおり、ハイエンドロジックが主なアプリケーションだ。

渡辺 やはり売上高で10%以上は伸ばしたい。モバイルDRAMの受託テストを土台に、非メモリー事業をどれだけ増やせるかにかかっていると思う。現に九州事業所では来期から携帯電話用CMOSセンサーの受託テストが立ち上がる見通しで、ここ数年待てば、た種が徐々に花開きつつある。これに伴い、来期は九州事業所およびテラパワーを中心としたテラパワー更新を進めていく計画だ。(聞き手・稲葉雅巳記者)